

2021年度横浜市地域日本語教育推進モデル地域 事業報告会 多文化共生セミナー

「行政による地域日本語教育の推進とモデル地域の報告

こんにちは!から始めよう 多文化共生のまちづくり」

主催:横浜市国際局(公財)横浜市国際交流協会

横浜市では、地域日本語教室や関連団体とのネットワーク構築等による地域日本語教育の充実を進めるため、市内3区をモデル地域とし、区内の各団体等と連携しながら取り組みを進めています。

2021年度のモデル地域である、磯子区、緑区、瀬谷区の活動報告を、市職員対象の多文化共生セミナーとして行い、73名にオンラインでご参加いただきました。

第1部基調報告「地域日本語教育を通じた多文化共生のまちづくり」では、横浜市の外国人住民の状況や市の多文化共生の取り組みを知り、また、地域日本語教育と行政の関わりについて展望する基調報告がありました。続く第2部「活動報告『2021年度地域日本語教育推進モデル地域3区での取組』」では、主に区役所から具体的な取り組み報告があり、その内容を受け、参加者意見交換で考えを深めて行きました。さまざまな部署からの参加者があり、外国人住民への対応や多文化共生への理解が、誰にでも必要となっていることがうかがえました。

各地域で、「こんにちは!」から始める多文化共生のまちづくりが進んでいけば、嬉しく思います。



事務局風景

テーマ

「地域日本語教育を通じた多文化共生のまちづくり」
「2021年度地域日本語教育推進モデル地域3区での取組」

報告者

<基調報告>

坂内 泰子氏

(一財)自治体国際化協会地域国際化推進アドバイザー
元神奈川県立国際言語文化アカデミア教授

横浜市国際局政策総務課

<活動報告>

2021年度モデル地域3区

磯子区地域振興課

緑区役域振興課

瀬谷区地域振興課

公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)

日時

2022年11月16日(水) 10:00-12:00

場所

オンライン(Zoom)

対象・
参加者

横浜市職員73人(登壇者およびスタッフ含む)

参加者の声

- ・多文化共生推進を考える際に、「生活者」として、外国籍の方を捉え、地域の一員としてつながりづくりを推進していくことが改めて大事だと思いました。
- ・「日本語教室は日本語の達人を要請するのではなく、外国人の自立した生活を支援するためのもの」という日本人の意識改革の必要性は本研修で大きく意識するようになりました。
- ・日本語ボランティアは、生活支援ボランティアなんだという認識で改まりました。(原文ママ)



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama Nihongo Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営:公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします!



2021年度横浜市地域日本語教育推進モデル地域 事業報告会 多文化共生セミナー

「行政による地域日本語教育の推進とモデル地域の報告

こんにちは!から始めよう 多文化共生のまちづくり」

各報告内容
から

横浜市国際局

<基調報告>

「横浜市における外国人住民の状況と多文化共生の取組」

市内の外国人は10万人をこえ、コロナ禍前の水準に戻ってきました。その半数以上が非英語圏出身で、国籍・地域に多様性が見られます。市では、国の外国人受入れに関する総合的対応策による補助金なども活用しながら、情報提供・相談対応、また、地域日本語教育の推進などに重点を置いています。ウクライナ避難民に対する支援については、市民、企業、民間団体等と力を合わせ、オール横浜で取り組んでいます。相談受付・日本語・ホスピタリティ(母国語で安心して交流できる場の提供)の3つの点から、安全・安心な生活支援を実施しています。

「これからの地域の日本語教室—行政との関わりにおいて」

地域の日本語教室は、(学習者個人の)日本語力の向上に重点を置いて活動が始まりました。今、地域のありかたを考えると、日本語力の程度に関わらず、外国人とも「こんにちは」が交わされるような、受け入れの素地を持つ地域作りが重要で、その推進に地域の日本語教室は役立つといえるでしょう。地域の日本語教室は、外国人の「生活場面と密着したコミュニケーション活動を中心とした能力」の習得が目標で、ボランティアは外国人が地域の一員として暮らす手助けをするのだという意識の変革が求められています。地域の日本語教育の先には、多文化共生社会の構築があり、行政の重要課題で、関与不可欠です。行政には異分野の市民団体と連携できるしかけが用意できます。日本語教室は、外国人が地域につながる入口であり、多文化共生の芽が伸びていく発信の場になれるといいと思います。

坂内泰子氏

<活動報告>

「磯子区における取組：日本語ボランティア向け講座を中心に」

磯子区では、「日本語ボランティアの担い手不足とスキル格差」という2つの課題があり、活動中の地域日本語教室の方たちの意見も取り入れながら、講座を企画しました。これから活動をしたい人向けのやさしい日本語講座と、活動中の人のためのブラッシュアップ講座です。ロールプレイやグループワークなど、実践を取り入れました。これらは日本語教室間の交流につながり、ボランティアが他の教室の応援に行くことがあるなど、助け合う様子がみられました。なお、2023年2月に、磯子区の国際交流ラウンジが新たにオープンする予定です。

磯子区
地域振興課

「緑区における取組：テーマ会話型日本語教室を中心に」

緑区には、市内のインド人の4割が在住しており、居住地域にも集住傾向がみられます。このモデル地域事業では、集住地域からは日本語教室が遠くて通いづらいという状況を受け、この地域近くの公共施設とオンラインとのハイブリッド方式で、テーマ型日本語教室「ようこそほんご@みどりく」(秋コースおよび冬コース)を開催しました。テーマは「お昼ご飯」健康で、それぞれ最終回には、地域の方等との日本語交流を行いました。2022年度は日本語学習支援者の支援に目を向け、日本語ボランティアブラッシュアップ研修を開催する予定です。

緑区
地域振興課

「瀬谷区における取組：日本語ボランティア向け講座&日本語教室を中心に」

瀬谷区では、日本語学習希望者に紹介できる十分な日本語教室がない状況のなかで、新たなボランティアを発掘すべく、区民向けの「日本語ボランティア入門講座」、さらに入門講座修了者対象の日本語教室体験研修「フォローアップ研修」(各全5回)を行いました。結果、フォローアップ講座受講者有志で、新規日本語ボランティアグループができ、活動を始めています。

その過程でさまざまな団体の方など出会い、当事者ニーズも見えました。2022年度は「外国人住民に情報を届ける、日本語講座参加のハードルを下げる」を目標に、未就学親子を対象としたやさしい日本語による交流イベントに取り組んでいます。

瀬谷区
地域振興課



よこはま日本語学習支援センター
Yokohama Nihongo Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営:公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします!

